



喜多登

「歯木のはなし」

「歯木」と書いて「しぼく」と読みます。これは歯ブラシが登場する前の、歯磨きの道具で、木の枝の端を咬砕して房状にしたもので、古代インドで発祥したと言われています。

この歯木をもって歯を磨くという習慣は、古代インドのスシュルタという医師の書いた『スシュルタ本典』に、「朝早く起きて歯を磨け。歯を磨くには、新しい虫食いのない木を用いる。その長さは指の幅一、二本分ほどで、小指の太さくらい節のない灌木を用いる」とあり、紀元前五世紀頃には既に歯木を使っている。歯磨きが行われていたようで、**仏教の經典**にも同様の歯の清掃法が書かれています。

この歯木に用いる木については、その地、その地ごとの違いもありますが、インドでは主にニームという木が用いられ、日本においてはニームが育たない為、カワヤナギ(楊柳)やクロモジ(黒文字)という木が用いられました。

どちらも薬効が大変高く、特にカワヤナギは解熱鎮痛剤としても有能で、このカワヤナギの別名である「楊柳の枝」を使うので「楊枝」、または「房楊枝」という語も生まれました。

これら歯木は近代までの口腔衛生において非常に重要なものでしたが、二十世紀に入ってから、高性能な歯ブラシや練り歯磨き粉の登場によって歯磨きの主役は歯木から歯ブラシに移っていきました。

いま私たちが何気なく行っている歯磨きにも歴史の積み重ねがあり、歯ブラシも元は一本の木の枝でした。今月四日からは歯と口の健康週間です。どうぞ歯をお大事に。

「歯神祭のご案内」

名称 歯神社例祭(通称 歯ブラシ感謝祭)
日時 六月四日 午前十一時

場所 大阪市北区角田町二番八号 歯神社

(マップファイブの観覧車の裏側(北東))

備考 歯ブラシ授与は先着百名迄。

お問い合わせ 網敷天神社 御旅社まで

「八月の御旅社 たなばた祭」

例年七月に執り行っておりました、当宮御旅社の七夕祭ですが、時期が梅雨の真っ盛りという事もあり、何度も雨天に見舞われ、肝心の牽牛織女の星すら見えないという状況が続いてきた事もある。昨年、玉垣崩落の恐れから中止した事がよい契機という事もあり、本年から、七月ではなく本来の七夕の時期である、旧暦七月、現在の八月に仕切りなおして、斎行致す事となりました。

現在、予定としましては、八月六日、七日、八日の三日間を考えております。

時間はこれまで通り、夕方四時から十時まで短冊の授与を致す予定です。

八月であれば彦星、織姫の星も夜九時頃には梅田の天頂に輝いており、まさに本来の七夕です。

また来月には詳細をお伝え出来るかと思っております。どうぞ皆様のご参拝をお待ち申し上げます。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

